

学校関係者評価委員会評価		①地域に関して課題を見出し、調査を行い、データに基づき解決策を考察し、その成果をポスターセッションで発表するという探究的なプロセスを通して、汎用的資質を伸ばし、能力を育成しようとしており、評価できる。テレビ等を通して輪島が全国的にも注目を集める中、地域課題をより深く認識し、それに基づきグローバルな視点へとつなげていくことが期待される。②地域の行事・事業に参加したり、インターンシップの経験を通して地域貢献の重要性を理解し、また感謝の気持ちもはぐくまれており、評価できる。③小学生児童に教えたり、中学の授業を参観したりしながら、12年間の学びの連続性・一貫性を意識した学校間連携を充実させている。このような活動を手がかりとして、教育系のキャリア教育にも取り組んでいる点で評価される。今後は、中学校との相互の交流が充実することを期待したい。総じて、重点目標1に関して、時代の変化・要請を見据えつつ、年々評価・改善されてきており、心豊かで地域愛にあふれた人財の育成に確実に寄与しており、概ね満足な状況である。		
評価結果を踏まえた改善策等		①ふるさと輪島を深く理解する主体的な取組をさらに発展させ、思考力・判断力・表現力等を育成する。 ②地域行事への参加やインターンシップを通して地域貢献のための取組を推進する。 ③長期的な視野に立ち、地域の教育力向上のため、小中学校、市教委と協働した事業を推進する。		
重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策）
2 課題発見・解決能力、コミュニケーション力の育成 ①多面的・論理的に考察し、適切に表現する学習（普通科） 多面的・実務的に考察し、総合的に実践する学習（総合学科） ②学習課題と連動させた授業 ③グローバルな視点に立った学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別学習課題(教材)の作成 学習課題と連動させた授業実践 多面的に思考させ、適切に表現させる授業実践 「生徒による授業評価」結果に基づく授業改善 ICT機器の活用 学習時間調査 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を受けることにより、思考力、判断力、表現力が向上したと考える生徒の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 <ul style="list-style-type: none"> 授業改善により、学習指導のスキルが高まったとする教員の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 	普通科 77% B 総合学科 73% B <hr/> 75% B <hr/> 86% A	成果：授業により、生徒は概ね思考力、判断力、表現力が向上したと考えている。「国語」「数学」の評価が80%以上となっている。 課題：「理科」「外国語」の教科が約70%であった。教員側には改善の余地がまだまだあると考えられる。さらに思考力、判断力、表現力が向上する授業改善に取り組むこと。 改善策：多面的に思考し、適切に表現できる授業実践を工夫する。 成果：ICT機器を活用し、授業を改善しようとする教員の意識が高まった 課題：ICT機器準備のための労力や教材開発のための時間捻出が負担とならないように環境整備を図ること。 改善策：プロジェクターを1～2年の各HR教室に10台配置した。今後より積極的・効果的な活用法を各教科で検討し、実践する。
	<ul style="list-style-type: none"> 世界事象の教材化 外国語教材の活用 ポスターセッション 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな視点を持つことができるようになったと感じる生徒の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 	普通科 58% C 総合学科 72% B <hr/> 64% B	成果：普通科3年以外は71%であり、概ね生徒はグローバルな視野を持つことができるようになった。 課題：普通科3年の割合の増加を図ること。 改善策：学習した事項が多方面・他分野に発展する事例を紹介するなど、グローバルに思考する場面を設けるような授業実践に努める。
	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化プロジェクト 各種プレゼンテーション ビブリオバトル(書評合戦) 	<ul style="list-style-type: none"> 行事等を通じてコミュニケーション力を高めることが A できた B ある程度できた C あまりできなかった D できなかった 	普通科 79% 総合学科 79% <hr/> A+B 79%	成果：生徒間で互いに連携・協力・支援し合う姿勢ができ、コミュニケーション力は高まってきている。 課題：「自立した社会人」にふさわしいコミュニケーション力へと高めること 改善策：各行事の企画・運営の際に、より一層生徒が主体となって取り組む機会を増やす。

学校関係者評価委員会評価		①学力の中心である思考力・判断力・表現力等の育成に関して、普通科と総合学科それぞれで目指す資質・能力を明確にした授業を設計・実施し、教員・生徒双方からの評価を行い、概ね満足な状況である。プロジェクトやICT機器が次第に整備され、その活用につき、教員・生徒双方で真に必要な場面での実質的な活用が望まれる。②学習課題と連動させた授業として、課題解決型・探求型の学習がなされているか検証が期待される。③グローバルな視点に立った学習指導に関しては、受験対策との兼ね合いを図りつつ、より積極的に推進することが期待される。異文化理解のための交流事業に取り組んでいる点は評価される。大学がグローバル化を目指す中で、入試をはじめとして高大接続が変わりつつあり、高校段階から多面的・多角的な視野、グローバルマインド、コミュニケーションスキルを育成することがきわめて重要である。総じて、重点目標2に関しては、グローバル化を視野に入れつつ、課題発見・解決能力やコミュニケーション力の育成に意を注いでおり、概ね満足な状況である。		
評価結果を踏まえた改善策等		①ICT環境の整備と指導法を研究し、ICT機器を活用した授業改善に取り組む。 ②生徒の能動的な学習を支援し、生徒の協働（協調）学習をとり入れた授業改善に取り組む。 ③グローバルな視野に立ち、課題発見・解決能力やコミュニケーション力を育成する。		
重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策）
3 普通科・総合学科の相乗効果による教育力の向上 ①普通科と総合学科が協働した取組 ②部活動の活性化 ③3年間を見通した進路指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化プロジェクト チャレンジウォーク 全校挨拶練習 登校指導 教師力向上研修 	<ul style="list-style-type: none"> 普通科と総合学科の生徒が協働して行事に取り組むことが <p>A できた B ある程度できた C あまりできなかった D できなかった</p>	<p>A 11% B 45%</p> <p><u>A+B 56%</u></p>	<p>成果：年度当初から、学校全体で一体感のある挨拶練習を行うことができた 課題：体育祭や球技大会の学校行事は、クラス対抗のものが多く、両学科の生徒同士が互いに協働して取り組む企画が少なかったこと。 改善策：クラスや学科を取り払った学校行事を企画・運営する。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 自分はTPOに応じて、適切な挨拶が <p>A できている B ある程度できている C あまりできない D できない</p>	<p>A 23% B 64%</p> <p><u>A+B 87%</u></p>	<p>成果：毎朝SH時の挨拶練習の成果により、明るく挨拶をかわすことができている。 課題：先生や他の生徒に、自分から挨拶をすることができない生徒も見られること。 改善策：自分から挨拶ができない生徒に対して、教員やクラスメートから積極的に声かけをし、挨拶の習慣が身に付く指導をする。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 不注意による遅刻者数が、前年に比べて <p>A 10%以上減少 B 10%(未満)減少 C ほぼ同数 D 10%以上増加</p>	<p><u>22% A</u></p>	<p>成果：8時5分に校門を通過することを目標にし、イエローカードで注意を促す生徒会の取組等で、成果が上がった。 課題：10月以降遅刻者が増加した。特に3年生に遅刻が多かったこと。 改善策：3年生の進路決定後、生活習慣が維持できるよう集会等を行う。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 部活顧問－担任交換会 地域指導者の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に部活動に参加することが <p>A できている B ある程度できている C あまりできていない D できていない</p>	<p>A 46% B 32%</p> <p><u>A+B 78%</u></p>	<p>成果：両学科の生徒が積極的に部活動に参加し、意欲的に取り組んでいる。2年次から運動部に加入する生徒もおり、部活動顧問と担任との連携の成果がみられた。地域の指導者の方に技術指導協力をいただき、競技成績の向上に繋がった。 課題：部活と勉強との両立に悩み、退部する生徒が減る指導をすること。 改善策：担任と部活動顧問が文武の両立に向けての情報交換を行い、連携して指導にあたる。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・「3年9期の取組」 ・学習合宿 ・1日学習会 ・難関大学体感旅行 ・8校連携事業 ・オープンキャンパス参加 ・大学模擬授業 <ul style="list-style-type: none"> ・「第1志望実現の取組」 ・インターンシップ ・キャリア教育講演会 ・資格、検定、面接支援 ・課題研究発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の模試より合格の可能性が高まった(模試成績を向上させた)生徒が <p>A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1志望の内定率が <p>A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満</p>	<p>1学年 62% B 2学年 28% D 3学年 32% D</p> <p>1,2学年7月~10月のデータ 3学年6月~11月のデータ</p> <p><u>84% A</u></p>	<p>成果：1学年では7月から10月にかけて60%以上の生徒の成績が向上した。</p> <p>課題：2、3学年では、広範囲な学習内容や応用問題に対応できる思考力を育む学習に取り組むこと。</p> <p>改善策：各教科の「3年9期の取組」をもとにして、成績層別の学習指導の充実を図る。</p> <p>成果：早期に就職試験を生徒に意識させる指導に取り組み、面接対策として複数の教員による入念な指導を実施し、多くの内定を得ることができた。</p> <p>課題：希望する業種・職種への理解を深め、望ましい職業観をさらに育むこと。改善策：今年度1学年も交えてインターンシップ報告会を実施した。次年度も継続し、全学年が年間を通じて働く意義を考える機会を設ける。</p>
<p>学校関係者評価委員会評価</p>	<p>①普通科と総合学科を有する全国でも稀な高校として、両科の生徒が協働して学校を改善しようとしている。挨拶奨励や遅刻防止に主体的に取り組んでいる点、特に、教師による指導から生徒主体により学校共同体の形成へと視点を移している点が評価される。②部活動は活発であり、上位大会への出場へも果たしており。部活動の活性化と学力向上は互いに背反するものではなく、文武の両立の重要性を生徒が理解できるよう工夫することが期待される。③「3年9期の取組」や「第1志望実現の取組」という3年間を見通した進路指導体制が両科ともに組織され、特に、第1学年で良好な成果を挙げている。今後は、大学のアドミッションポリシーも国際化を意識して変わっていくと思われるので、そうした新しい動向を見据えた3年間の取組を検討することも大切である。総じて、重点目標3に関しては、普通科・総合学科の相乗効果を意識した特色ある施策を打ち出しており、概ね満足な状況である。</p>			
<p>評価結果を踏まえた改善策等</p>	<p>①両科の特色ある取組へ相互に参加し、生徒の主体的、能動的活動の支援を行い学校行事の活性化を図る。 ②高い進路志望を持たせ、個別指導体制の充実を図る。また、学習と部活動の両立ができるよう、支援体制を整備する。 ③3年間を見通した指導体制を確立し、組織的な教科指導、進路指導を実施する。</p>			